介護老人福祉施設　田子のまち 2024 年度事業報告

昨年度も職場づくりに力を注いだ年でした。管理体制が大幅に変化したことで、職員一人一人の役割を見直すきっかけとなり、それぞれの出来る力を発揮し、出来ない部分を補い合うような関係性が出来たと感じています。しかし、介護職員不足が一向に改善出来ないまま、1 年が過ぎていきました。正規採用が難しく、派遣職員で不足時間帯を補いながら続けてきました。法人全体で、採用を進めていくことと同時に、働きやすい職場、職員が定着できる体制が重要になってきます。チームの中で、自分の役割をしっかり見出し、十分に力を発揮し働けるよう、心理的安全性と心理的柔軟性を高めていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染対策の規制緩和も進み、面会や外出がコロナ禍前までとはなりませんが、暮らしも豊かさを取り戻しつつあるように思います。入居者様・ご家族が安心して、笑顔で過ごせる日々を大切に、施設理念を中心とした質の高いケアの提供をこれからも追及していきたいと思います。

田子のまちも開所から 11 年となり、建物の修繕が多くなってきました。法人介護事業の重点課題でもある「経営改善」ですが、想定していなかった出費が増え、かなり影響を受けました。今後もますます経費は増えていくだろうと予想し、予算に反映していきたいと思います。

また、2024 年度は介護署名の増加や福祉ウェーブに参加者がこれまでで一番多かった、等、社会保障運動が活発になりました。今後も命や暮らしを守るという視点を大事に、今年度発足した「暮らしを考える委員会」を中心に、取り組みに力を入れていきます。

昨年度は、目標稼働に達することは出来ませんでしたが、ショートステイの撫子を再開することが出来たのは大きな成果です。職員全員が稼働を意識した、一丸となった経営を目指し、今年度も進めていきます。

【2024 年度実績】

・長期入居

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延数	2400	2480	2400	2480	2480	2400	2480	2400	2480	2480	2240	2480	29200
実数	2290	2324	2300	2365	2322	2296	2327	2303	2357	2401	2200	2413	27898
稼働	95.4	93.7	95.8	95.3	93.6	95.6	93.8	95.9	95.0	96.8	98.2	97.2	95.5
平均介	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8

・短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延数	300	310	300	310	310	300	310	310	620	620	560	620	4870
実数	198	167	225	256	281	258	272	229	292	342	372	475	3067
稼働	66.0	53.8	75.0	82.5	90.6	86.0	87.7	73.8	47.0	52.2	66.4	76.6	62.9
平均介	2.3	3.0	3.0	3.1	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	2.9	3.0	3.0	3.0

【長期相談員】

１、2024 年度総括

今年度は年間稼働 97%を目標に取り組みましたが、目標達成には至りませんでした。退居から入居までを 3 週間以内としていましたが、実際は 1 ヶ月以上かかったケースがありました。看取りの方も増え、退居が続いてしまう時期には入居準備にも時間がかかっていました。

申し込みの待機者の数は平均 60 人前後と少しずつ増えています。しかし、疾患への対応困難や転倒のリスクがあるなど受け入れ側も難しく入居に進められないケースが多くみられ課題に残りました。今後は他職種と協力し受け入れの幅を広げていきたいと思います。

ユニットの受け入れではユニットの状況の把握、情報共有や事前の準備などリーダーと相談、ユニット職員の協力もあり受け入れがスムーズになりました。ショートステイ撫子の再開もあり、ショートステイから特養に入居することも増え稼働に繋げることも出来ました。しかし、候補者とユニットとの意見が生じることもあり、候補の見直し、入居するまで時間がかかるケースもありました。事前に状況確認と受け入れ側の相談を早めに進めていきたいと思います。

田子のまちが 11 年目になり、最近では以前入居されていた家族からの口コミで、「知り合いからの紹介で田子のまちに申し込みにきました」というお言葉をいただくことが多く、田子のまちの良さが広がっているなと感じました。今までの田子のまちで取り組んできた成果が評価に繋がっていると嬉しくなりました。田子のまちの入居を待っている方一人ひとりの状況把握と新規申し込みの方の対応、田子のまちを選んで待っている方々の要望に応えられるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

２、2024 年度取り組み

① 年間 12 回の入居判定委員会を開催しました。お看取りの方が増えた際は事前に委員会内で次の入居の方を決定しました。

② 入居待機者へ状況確認の連絡し待機者リストを整理しました。

③ 宮城野の里、風の音・史の相談員と情報を共有し入居に繋げました。

【要介護度別】※3 月末時

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0 名	2 名	23 名	35 名	18 名

【保険者別】※3 月末時

宮城野区	若林区	青葉区	太白区	－	－
47 名	4 名	2 名	1 名	－	－
多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	岩沼市	柴田町	利府町
8 名	5 名	1 名	1 名	1 名	1 名
町島町	東松島市	福島市	浪江町	大館市	－
3 名	1 名	1 名	1 名	1 名	－

【性別・平均年齢】※3 月末時

	人数	平均年齢(3 月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	14 名	84.7 歳	72 歳	100 歳
女性	64 名	87.7 歳	66 歳	103 歳
計	78 名	87.1 歳	－	－

【入退居状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入居	2 名	4 名	2 名	2 名	3 名	1 名	2 名	3 名	3 名	1 名	0 名	1 名
退居	3 名	3 名	1 名	4 名	2 名	2 名	3 名	0 名	3 名	0 名	1 名	2 名

【短期相談員】

1 、2024 年度総括

今年度は年間 95%の稼働を目標にしていましたが、目標達成は出来ませんでした。しかし、新規の利用者様が増え稼働はあげることが出来ています。9 月再開予定でしたが、12 月での再開にずらし撫子を再開させています。思っていた以上に新規の利用者が増え、急激な稼働低下にはなっていません。

ブログでの発信もショートの様子がわかるように写真を載せてお知らせしました。定期的に乗せることができていないため、来年度は定期的な掲載が出来るように取り組んでいきます。

ご家族や、居宅のケアマネからの「また来るからね」や「とても助かりました」の言葉を頂くことでモチベーションを上げ稼働を上げていく事が出来ました。

特養入居を目的としたショートのロング利用も増えていますが、田子のまちへのスムー

ズな入居にはつながっていないと思われます。来年度は田子のまちだけではなく特養 3 施設での入居を進められるようにご家族への説明をしていきたいと考えています。同時に前年度と同様に新規獲得、特養待機者のロングショート利用を進め、施設全体での稼働の安定が図れるよう取り組んでいきたいと思います。

センサー希望のご家族や利用者様の増加が見られており、リスクの高い方が多くなっている為、福祉用具の見直しや、居室の割り当ての工夫を行いリスク管理していきたいと思います。転倒だけではなく、認知症の利用者様への対応についても高い知識と技術が必要です。これまで以上に対応力を身に着けていかなければいけないと感じさせられています。

職員が安定せず、新人教育の指導不足や、現職員の負担が増えたことで現場での伝達ミスや記入ミスなどが目立つようになっています。職員全体での意識を高め、利用者様ファーストのチームケアが出来るようにしていきたいと思います。

２、2024 年度取り組み

① 12 月から撫子の再開をすることができました。
② 他職種との連携を図る為に情報交換の場として毎月話し合いを行いました。
③ リーダーとの連携を図り、情報共有を行いました。
④ アセスメントの簡素化のため、データの入力方法を変更しました。

【施設ケアマネジャー】

１、2024 年度総括

今年度は職員が 1 名増え、5 人体制になり安定して活動出来るようになりました。ユニット担当制を開始し、ユニット会議への参加や相談窓口となり、より一人一人の情報を得られるようになったと感じています。また、担当が不在時も他の職員が対応出来るよう情報共有を以前よりも意識し行いました。それにより今まで多かった「分からない」が少なくなり対応がスムーズになりました。

嘱託医や協力機関とメールを活用し、情報の共有を行いました。嘱託医とご家族の面談では、多職種で必要な医療的情報を共有し、今後の方向性について話し合う機会を多く作る事が出来ました。また、死亡診断書が病院での発行から施設内で記載し渡せるよう変更になり、ご家族が病院に受け取りに行く負担がなくなりました。

今年度も看取りの方が多くいましたが、急に自宅に連れていきたいご家族の意向に多職種連携し、医務付き添いですぐに対応出来ました。体調や食事摂取量など変化が起きてから看取りまでの期間に個人差が大きく、状態の変化に早く気付けるようにどうすればいいのか、情報の共有と正しい情報の伝え方は来年度も引き続き課題として取り組んでいきます。

２、2024 年度取り組み

① 医療的な側面から、やりたい事が実現できるように多職種と連携し検討しました。

② 情報の伝達や共有がスムーズに行える様に、お互いに思いやりをもって行動しました。
③ 状態の変化を早期に把握し、必要な受診や医療的対応しました。
④ 全員が研修会へ参加しました。

【医務】

1、2024 年度総括

今年度は職員が 1 名増え、5 人体制になり安定して活動出来るようになりました。ユニット担当制を開始し、ユニット会議への参加や相談窓口となり、より一人一人の情報を得られるようになったと感じています。また、担当が不在時も他の職員が対応出来るよう情報共有を以前よりも意識し行いました。それにより今まで多かった「分からない」が少なくなり対応がスムーズになりました。

嘱託医や協力機関とメールを活用し、情報の共有を行いました。嘱託医とご家族の面談では、多職種で必要な医療的情報を共有し、今後の方向性について話し合う機会を多く作る事が出来ました。また、死亡診断書が病院での発行から施設内で記載し渡せるよう変更になり、ご家族が病院に受け取りに行く負担がなくなりました。

今年度も看取りの方が多くいましたが、急に自宅に連れていきたいご家族の意向に多職種連携し、医務付き添いですぐに対応出来ました。体調や食事摂取量など変化が起きてから看取りまでの期間に個人差が大きく、状態の変化に早く気付けるようにどうすればいいのか、情報の共有と正しい情報の伝え方は来年度も引き続き課題として取り組んでいきます。

2、2024 年度取り組み

① 医療的な側面から、やりたい事が実現できるように多職種と連携し検討しました。
② 情報の伝達や共有がスムーズに行える様に、お互いに思いやりをもって行動しました。
③ 状態の変化を早期に把握し、必要な受診や医療的対応しました。
④ 全員が研修会へ参加しました。

【事務】

1、2024 年総括

今年度は当初予算作成後からの変更が非常に多く、目標としていた予算管理についてはかなり苦戦しました。管理者の変更や宿直廃止、職員紹介手数料増、撫子雑再開の延期、屋上大規模漏水修理、居室異臭問題等です。

当初予算との比較分析が難しく、補正予算で何度も修正を重ねてきました。行き当たりばったりの経営で資金不足に陥らないよう、民医連予算管理テキスト・民医連統一会計基準の学習を進め、田子のまちの経営を守る知識と技術を身に付けなければならないと感じまし

た。共済会で学習した山梨勤医協の教訓も生かし取り組みたいと思います。

もう一つ達成できていないのが正確な必要利益の算定です。これは来年度の最優先課題と考えています。事務職責者間でも学習を行いながら算定して行く計画を立てています。完成すれば大規模修や繕設備の入れ替えについての中長期計画書が整います。職責間でしっかり共有し、必要利益に基づいた予算管理を行います。

田子のまちは、2024 年度短期完全再開を果たし、利用者も職員も増加、全てにおいて今までよりも規模が大きくなってきています。職員の情報管理や総務手続き業務、福利厚生面の充実、取引先業者の管理、消耗品の管理、修繕対応など、各種業務にミスや漏れ、遅れが出ないよう、常に事務体制 2 名で相談し業務改善へ向け検討を重ねてきました。業務増加により超勤増、体調不良に繋がらないよう今後も協力し安心安全な職場環境づくりに努めながら進めていきます。

社会保障運動推進者としては、職責会議での新聞学習も軌道に乗り職責間で社会情勢に目を向ける時間が持てたことはとても良かったです。来年度は法人社保委員会や暮らしを考える委員会での情報を職責はじめ、全職員へ発信したいと考えます。介護現場の改善のために来年度は職責者全員で福祉ウェーブへ参加出来るよう呼びかけたいと思います。

２、2024 年度取り組み

① 年間の予算管理計画を職責間で共有し、計画的な討議を行い、部門責任者と個別に予算作成の時間を持ち予算に反映させました。
② 暮らしを考える委員会の中で、暮らしに身近なテーマで学習を行いました。
③ GS と玄関掲示板を有効に活用し職員に必要な情報を発信しました。
④ 在庫切れの無いよう消耗品の管理、業者との価格交渉を積極的に行いました。
⑤ 事務室が憩いの場となるよう入居者様の対応、事務室玄関の整美に努めました。

【食養】

１、2024 年度総括

今年度は食養職員の退職者はなく、昨年度よりも落ち着いた環境の中でみんなが業務に取り組むことが出来たのではないかと思います。

新人職員ゆえの間違いも目立ちましたが、これまでの作業手順にこだわらず、みんなが同じ様に間違いのない作業が出来るよう、お互いが納得できるまで話し合う機会を何度もつくりました。まだまだ、自身の担当業務をこなすことで精一杯なところは多いですが、これからも、些細なことも話しやすい風通しの良い職場環境を作っていきたいと思います。

また、今年度は栄養管理の部分で栄養ケアマネジメント強化加算と療養食加算の算定を開始しました。ミールラウンドの実施で入居者様と関わりが増え、栄養管理もより細やかに個別の対応ができるようになったと感じています。しかし、加算をとることで超勤が増えてしまうなど栄養士の業務分担の見直しをすることは今後の課題となりました。

来年度は、正確で効率の良い業務ができるよう、食養チーム一丸となって取り組んでいきたいと思います。

２、2024 年度取り組み

① 施設内の学習会や保健所主催の研修会には積極的に参加し、その資料を用いて食養会議内で伝達学習を行いました。食品衛生や食中毒についての情報は変わるものなので、食養職員みんなで新しい知識を会得することが出来たと思います。

② ユニット職員、相談員、ケアマネジャー、看護師とは、口頭だけでなくメールを利用しての情報共有出来ました。また、ミールラウンドを行なうようになり、以前よりも入居者様の食事摂取状況を確認して把握することが出来る機会がふえました。

③ 厨房内では新しく連絡ノートを作成し、連絡事項や日々の業務で出てくる疑問を食養職員全員が漏れなく共有することが出来るようにしました。

④ 発注間違いや在庫の確認不足があり、食材の期限切れや不要な在庫を抱えてしまうことがあったため、月に１度は在庫確認を行い、食品庫や冷蔵庫内の在庫状況を確認するようにしました。また、発注間違いについては数回確認作業を行うことを徹底し、間違いが少なくなるように取り組みました。

⑤ 署名活動は、食養会議内で渡邊係長からわかりやすく説明をしていただき、改めて署名活動の大切さを学ぶことが出来ました。署名が必要な場合は期日を周知し、提出していただくようにしたので、以前よりも署名の提出率はふえました。

【研修】

１、2024 年度総括

今年度は、ほぼ計画通りに研修会を開催することが出来ました。新たに口腔ケア学習会を開催し、いつも来ていただいている長町歯科の歯科衛生士の方に基本的な知識を教えていただきました。集合研修で行いましたが、多くの職員が参加してくれて、口腔ケアの重要性を根拠もって学ぶことが出来ました。学びたいと思っている職員は多いものの、施設で行う学習だけではサポートは難しく、外部研修への参加も積極的に進めました。今年度は、今までで一番多くの職員が外部研修に参加出来たと思います。外部研修への参加は、個人のスキルアップにつながると同時に他の職員へもいい刺激となり、知識となっています。

来年度も、必ず行わなければならない法定研修をしっかり網羅し、なおかつ、個人のスキルアップにもつながるように、研修内容を検討し開催したいと思います。

２、2024 年度取り組み

① 研修計画に沿って進められているか確認し、開催が遅れているものは声を掛け、開催のサポートをしました。毎月、職責会議で翌月の学習会を確認し、共有しました。

② 各委員会内やユニット会議内で開催し、多くの職員が同じ内容を学べるようにしま

した。

③ 報告書提出の期限を決め、主催者に伝えました。参照資料もデータや紙で保管できるようまとめました。

月	内容	参加人数
4 月	看取りについて（看取り期のサイン、ケア・対応方法）	38 名
	学ぼう会（AED の使い方）	3 名
5 月	災害 BCP　シミュレーション	53 名
	学ぼう会（緊急時の対応）	11 名
	食中毒学習とシミュレーション	49 名
6 月	学ぼう会（緊急時の対応）	8 名
	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	51 名
7 月	リスクマネジメント（危険予知トレーニング）	43 名
8 月	身体拘束廃止	46 名
	学ぼう会（窒息時の対応）	6 名
9 月	感染症 BCP（コロナ発生時の対応）研修	6 名
	夜間捜索訓練	13 名
	学ぼう会（転んで頭を打った際の対応）	6 名
10 月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	49 名
	災害 BCP　訓練・シミュレーション	5 名
	学ぼう会（救命救急）	4 名
11 月	感染症（インフルエンザ・ノロウイルスについて）シミュレーション	55 名
12 月	認知症ケアについて	44 名
1 月	リスクマネジメント（服薬マニュアルについて）	33 名
	口腔ケア学習	23 名
2 月	身体拘束廃止学習	40 名
	学ぼう会（痙攣とてんかんについて）	9 名
3 月	避難訓練	110 名